

ぼくと田んぼの一年間

旭市立豊畑小学校 三年 川口 りょうま

ぼくの家のまわりには、田んぼがいっぱいあります。ぼくは学校の行き帰りに、春も夏も秋も冬も田んぼを見ながら歩いていきます。

あたたかくなると、カラカラだった田んぼは水がはってあって、お日様の光でキラキラしていてきれいです。田んぼをのぞくとおたまじやくしがいて、ぼくはむ中になつて見てしまつて、田んぼにおちてしまつたこと

2

とがありました。その時は、足がながながぬけなくて、先生に助けてもらつてやっと田んぼから出るこゝろができました。ぼくはその時、お米を作っている人は「こんな歩きづらい所で作ぎようをしているんだ。大へんなんだな」とあらためて思いました。

だんだんと暑くなつてくると、歩いていると中で「もうつかれて歩きたくないな」と思う時があります。そんな時に田んぼを見たら緑のなえがぐんぐんせい長して大きくなつて

いました。風がふくと緑のじゆうたんがサラサラと動いているみたいで、なんだかすずしい気もちになりました。ちよつと元気が出たのでまた歩いて帰ることができました。

夏休みが終わって学校がはいまると田んぼは黄色い色にかわっています。いねは重そうにみんなおじぎをされていて、今度は黄色いじゆうたんが、ワサワサーとゆれています。ぼくは、このけしきが一番好きです。白いごはんが大好きなので、もうすぐおいしいお米の

4

しゆうかくだと思つとあくあくするからです。そしてまた寒くなつて、カラカラの田んぼになります。だけど、朝の田んぼはしもで白くなつていたので白い田んぼです。ぼくも寒いけど田んぼも寒そうだな。と思ひながら学校に向かいます。

ぼくは、白いごはんもお米が育つ田んぼのけしきも大好きです。ぼくは、ごはんからも田んぼのけしきからも毎日元気をもらっています。